様式１－３（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物 非結球レタス（作型：－）栽培暦（令和８年度）

JAちばみどり 海上野菜組合

1. 土づくり　　完熟堆肥を施用する

2. 施肥　　①･②のいずれかの施肥を実施する　**化学肥料窒素成分使用量 12.5kg／10a以下**

	肥料名	施肥量
①	ちばみどり有機888（8-8-8　有機態窒素　1.2）	180kg/10a以下
	エコレット866（8-6-6　有機態窒素　3.9）	310kg/10a以下
	苦土石灰	60kg/10a
②	苦土石灰	60kg/10a
	苦土重焼燐	40kg/10a

3. 防除　**化学合成農薬　7成分回数まで**

（スピノエース顆粒水和剤･ゼンターリ顆粒水和剤･エスマルクDF･Zボルドー･カスミンボルドーは化学合成農薬に含めない）

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病害虫	備考（耕種的防除の実施等）★ 変更可能農薬
9月上旬	は種	―ハスモンヨトウ･オオタバコガ― ―アブラムシ― ―すそ枯病･べと病― ―菌核病―	①D－D （作付 10～15 日前）	15～20 ﾘｯﾄﾙ/10a	ﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ	害虫防除の為、育苗床は寒冷紗で被覆をする ※スピノエース顆粒水和剤で潅注処理をする場合、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60 cm･使用土壌約30）当り 500 mℓで行うこと
中旬						アブラムシやその他の病害虫などを防除する為、圃場周辺の雑草を除去する
下旬			②モンカットﾌﾛｱﾌﾞﾙ40 （収穫 7 日前）	1000～2000 倍	すそ枯病	苗床での立枯病が本圃でのすそ枯病の発生源となるので多潅水に注意する
10月上旬	定植		又は ランマンフロアブル （収穫 3 日前）	2000 倍	べと病	
中旬			③フォース粒剤（定植前） 又はランダイヤ粒剤（植付時）	9kg/10a	ネキリムシ類	＊ランダイヤ粒剤は＊2 回カウントとする 通路の雑草は、中耕除草する
				6 kg/10a		
下旬			④キノンドーﾌﾛｱﾌﾞﾙ （収穫 30 日前）	800～1000 倍	斑点細菌病	ハスモンヨトウは若齢期のうちに防除を実施する すそ枯病の初期防除に努める。 トンネル被覆前に防除を実施する
			⑤アファーム乳剤 （収穫 3 日前）	1000～2000 倍	ハスモンヨトウ オオタバコガ	
			⑥ﾌｪﾆｯｸｽ顆粒水和剤 （収穫前日）	2000～4000 倍		
11月上旬			⑦プレバソンフロアブル 5 （収穫前日）	2000 倍		
			⑧トルネードエースDF （収穫 7 日前）	2000 倍		
中旬	トンネル被覆		カスミンボルドー （収穫 7 日前）	1000 倍	腐敗病	
			⑨ﾌｧﾝﾀｼﾞｽﾀ顆粒水和剤 （収穫 14 日前）	2000～3000 倍	菌核病	
			⑩アミスター20 フロアブル （収穫 7 日前）	2000 倍	菌核病	
			⑪モスピラン顆粒水溶剤 （収穫 7 日前）	4000 倍	アブラムシ類 アザミウマ類	
			⑫コルト顆粒水和剤 （収穫 7 日前）	3000～4000 倍	アブラムシ類	

			⑬ダントツ水溶剤 （収穫前日）	2000～4000 倍	アブラムシ類	
下旬			**＜化学合成農薬に含めない薬剤＞**			
			スピノエース顆粒水和剤 （収穫7日前） ゼンターリ顆粒水和剤 （発生初期但し、収穫前日まで）	2500～5000 倍 1000～2000 倍	オオタバコガ ヨトウムシ	
			エスマルクDF （発生初期但し、収穫前日まで）	1000 倍	ヨトウムシ	
			Zボルドー （―）	500～800 倍	腐敗病	
			ウララ DF（収穫前日まで）	2000 倍	アブラムシ	

☆みんなで守ろう生産基準